テーマ：

SUN SUN 畑のはてまで行ってＴ！

～トマトのひみつお教えします トマトを食べようプロジェクト～

神奈川県
横浜市立
六浦南小学校
小山先生・荒木先生
森田先生・大久保先生

この活動の特徴

「凛々子」活用のポイント①

栽培した学年だけでなく
全校に活動内容の共有を図った

「凛々子」活用のポイント②

さまざまな工夫をしたポスターや紙芝居
などでトマトの魅力を伝える

活 動 の ね ら い

- 野菜が苦手な児童も好きな児童も育てる喜びや苦労を知り、課題を解決する力を養う
- 野菜に興味を持ち、自分たちの生活にとても身近で大切なものであることに気づく

活 動 の 概 要 と 流 れ

対　象　学　年　：　３年生（８３名）
実　践　期　間　：　４～１０月

時期	学習活動
４月	おいしいトマトとは何か、どうすれば作れるのかを考える
	肥料を入れるなど畑を準備し、苗を定植し観察開始
	芽かき、追肥、支柱立て、雑草取りを行う
	病気や害虫からトマトを守るための方法を調べる
７月	収穫を開始。夏休みも当番制で世話や収穫を続ける
	収穫したトマトを冷凍保存する
７月	収穫したトマトをどのように食べるのか話し合う
８月末	給食（チリコンカーン、カレー）にトマトを使ってもらう
９月中旬	保護者の協力のもと、家庭科室でケチャップ作りをする
１０月	作ったケチャップを試食する
１０月	トマトの魅力を伝える。紙芝居やポスター、新聞、絵本を手づくりして掲示

ここがポイント！取組の工夫と実践の成果

前年の経験を生かした栽培活動を計画

２年生で野菜を育てた経験から児童の「食」への意識に変化が見られたという実感を持ち、３年生でも継続して栽培活動をするにあたり、加工用（調理に向く）トマトである凛々子を選びました。

自分たちで考えて栽培活動と収穫後の調理を実践

凛々子の栽培にあたり、まず「①おいししいトマトを育てたい、②おいしいトマトを食べたい、③おいしいトマトの魅力を伝えたい」という３つの柱を決め、活動を広げました。

栽培は一人１苗とし、おいしいトマトを育てるために必要なこと、世話のしかたなどを考えたり、調べたりしながら実際に畑に足を運んで適切な方法を発見していきました。芽かきや追肥といった基本的管理から、生育状況をよくするために雑草を抜いたり、病虫害についても対処方法を具体的に調べて実践しました。

また、トマトの魅力を伝えていくために生長の観察記録を付け、どのような方法で表現するかについても自分たちで考えました。

給食に使用してもらい、ケチャップを手作りして味わう

７月には凛々子の収穫にこぎつけました。「収穫まるわかりカード」を活用し、収穫のしかたや収穫できる完熟度、色、形などを調べてから収穫。夏休みは子どもたちが当番制で世話や収穫を続けることにして、その際誰もがルールに則り収穫できるように、全職員にお知らせとお願いをしました。

子どもたちは収穫した凛々子をどのようにして食べるかを話し合い、凛々子は加工用トマトであることから、トマトケチャップを手づくりすることに決めました。これは、保護者の協力を頂き調理をしました。また、誰に食べてもらうかを考えた結果、「全校のみんなに食べてほしい」と意見がまとまり、給食に入れてもらえるように栄養教諭にお願いし、夏休み明けの８月末の給食のメニュー（チリコンカーン）に凛々子を使ってもらいました。

工夫がたくさん！ トマトの魅力を伝える取り組み

この一連の活動で実感した「トマトの魅力」を伝えるため、成長記録やトマトの特徴、レシピなどを紙芝居やポスター、新聞、絵本などにまとめ、廊下に貼り出すほか、各クラスに伝える、掲示するなどしてみんなに見てもらいました。

先生から一言！実践を通して

子どもたちは凛々子の栽培・調理活動で出てくる課題に対し、自分たちの力で解決しようと試行錯誤しながら取り組みました。調理活動では生のトマトが苦手な児童が、手作りのケチャップを試食して笑顔になったり、友達や家の人と一緒に調理をすることを楽しんだりできました。中には「給食に出る野菜を少しでも食べてみようかな…」という子どもも見られました。これらの活動を通じて子どもたちは「トマトには魅力があるんだ！」と発見し、それを多くの人に伝えるために発信しようとする意欲も見られました。

受賞理由

２年生で野菜の栽培活動を経験した３年生の取り組みらしく、栽培や調理活動で起こる課題に対し、自分たちで予測し、調べて準備し、実践して記録するなどの主体的な活動が光っています。また、給食に使って全校で味わう、発見したトマトの魅力をポスターなどにして発信するなどの活動も素晴らしいです。